

## ■北海学園大がフラッグフット教室を開催

昨年の北海道学生アメリカンフットボール選手権王者の北海学園大が9日、札幌市中央区の三角山小で同小の児童らを対象にフラッグフットボール教室を開いた。2028年ロサンゼルス五輪の新規種目に決まって注目されるフラッグフットボールの魅力を、北海道チャンピオンの学生たちが楽しく手ほどきした。



フラッグフットボールは、アメフトと同じボールを使い華麗なパスなどで攻めるのは一緒だが、タックルの代わりに腰に付けたフラッグを奪って相手を止めるのが特徴。小学生でも安全に楽しめるスポーツだ。ロス五輪を目指す男子日本代表には、北海道大OBの伊藤耕世（京都ジュベナイルズ）が活躍している。

教室には小学生2人と幼稚園の5、6歳児4人が参加。ユニホーム姿の北海学園大の選手8人、スタッフ12人と高木幸樹HCが講師を務めた。お兄さん、お姉さんと一緒にウォームアップで体をほぐした子供たちは、まずパスキャッチの練習。初めて触れるボールを見事に捕球する小学生もいて、歓声が上がった。相手選手の腰のフラッグを奪う守備練習を済ませると、子供たちと大学生が5人ずつ4チームに分かれてゲームを行った。決勝ではQB成田滉佑（新4年）のパスを、三角山小3年の一戸恒陽君が鮮やかにTDキャッチして、堂々の優勝を飾った。



父親が札幌大アメフト部OBという一戸君は「自分で優勝を決められ、楽しかった」と初めてのフラッグフットを満喫。北海学園大の成田主将は「アメフトをもっと多くの人に広めるのが教室の目的。今日は子供たちが喜んでくれてうれしい。今後も教室を開きたい」と話していた。（北海道学連広報委員・塚田博）